

山陽小野田市立山口東京理科大学

地域連携・社会貢献レポート

2024年4月～2025年3月



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学
Sanyo-Onoda City University

地域連携・社会貢献レポートの刊行にあたって

山陽小野田市立山口東京理科大学

学長 武田 健

平素から、本学の教育・研究活動にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。
地域連携・社会貢献レポートをお届けするにあたりご挨拶申し上げます。

山陽小野田市立山口東京理科大学は、「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」という建学の精神のもと、地方都市における落ち着いた教育環境のなかで、専門的知識に基づいた薬工系分野における学術活動を通じて教育・研究を推進するとともに、地域に根差し、地域社会の発展に寄与する「地域のキーパーソン」の育成に貢献することを目的としています。また、教育・研究と地域貢献が一体化した生涯教育の充実を基本理念の一つに掲げています。

本学はこの理念のもと地域連携・社会貢献に取り組み、教育・研究の成果を社会連携活動として積極的に地域に還元するよう努めています。本レポートは、小中高と大学の教育連携、市民の生涯学習支援、地域産業との連携強化、地域課題の解決に向けた共同研究など、2024年度の地域連携・社会貢献の取り組みの一部を紹介するものです。

「人生100年時代」において、人々が歳を重ねながら活力をもって時代を生き抜くためには、本学のこれまでの地域連携・社会貢献活動に加え、生涯継続して学び続けることのできる機会の提供がますます必要になっています。社会のニーズに柔軟に対応して、様々な形式のリカレント教育(社会人向け大学院、先進的な知識・技能を学ぶことのできる履修プログラム、一般教養等に関する公開講座等)を今後より一層積極的に実施し、「地域の知の拠点」として、前進してまいります。今後も山陽小野田市に根ざした研究学園都市の形成を目指し、地域社会とともに歩む大学としての役割を果たしていく所存です。

どうか市民・県民の皆様には、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

山陽小野田市立山口東京理科大学の地域連携・社会貢献の取り組み

本学の地域連携・社会貢献の取り組みは、設立母体である山陽小野田市から提示された中期目標のうち「地域社会との連携、地域貢献に関する目標」の達成に向け、本学が2022年4月1日から2028年3月31日までの6年間に実施する「地域社会との連携、地域貢献に関する中期計画」(第2期)に基づいて行われています。

本レポートでは、本学が中期計画に基づき、2024年度に行いました地域連携・社会貢献の取り組みの一部をご紹介します。

<地域社会との連携、地域貢献に関する中期計画>

1. 「知(地)の拠点」の役割を発揮するための組織体制等の整備・充実

(1) 地域社会との連携を積極的に進め、地域や行政のニーズを把握し、それらが抱える課題の解決に資するため、大学の持つ知的・人的資源を効果的に活用し、シンクタンク機能を発揮することにより、地域社会の持続的発展に貢献できる「知(地)の拠点」としての役割を果たします。

(2) 地域貢献活動の積極的な展開

地域貢献活動に対する高い意欲と意識を持ち、産学官連携や地域社会との交流を積極的に推進します。また、公開講座の開催や新たな社会人教育プログラムの提供など、多数の者が大学の教育と研究活動に触れ学ぶことができる山口東京理科大学ならではの生涯学習プログラムを推進することで、学生だけでなく市民や社会人が集う「地域に開かれた大学」を目指します。

2. 企業・医療機関・他の高等教育機関等との連携に関する目標

企業や医療機関、他の高等教育機関等との連携や地域社会との交流を積極的に推進することで、共同研究などによるイノベーションの創出や地域経済の発展に寄与します。

3. 教育機関との連携に関する目標

初等中等教育との連携、高大連携、他の高等教育機関との連携を積極的に展開し、学生及び教職員の幅広い分野での活動を促進することにより、大学外の多様な知的・人的資源の活用及びネットワークの充実を図り、地域教育の活性化に貢献します。

4. 学生の活動の場の創出に関する目標

(1) 学生の活動の場の創出に関する目標

学生が早い段階から教育研究及び地域貢献に対する明確な目的意識を持って活動を行い、産学官及び地域社会との連携・交流の促進を図るとともに市のまちづくり施策にも積極的に参画できる機会の創出に取り組みます。

(2) 学生生活充実のための支援の充実

学生寮の整備や交通手段等をサポートし、学生の市内での活動の場を拡げ、充実した学生生活を送ることができる体制・制度の構築に努めます。

目 次

地域連携・社会貢献レポートの刊行にあたって	1
本学の地域連携・社会貢献の取り組み	2
1. 市民への貢献	
(1) 薬草による健康づくり講座	5
(2) 小・中学校出前実験「ほんものの科学体験講座」	6
(3) サイエンス・カフェ	6
(4) 令和6年度大学開放授業	7
(5) 令和6年度研究成果発表会	7
2. 高等学校との連携	
(1) 「理系教員のためのリカレント・セミナー」を開催	8
(2) 出前講義	9
3. 産業界との連携	
(1) 山口県 GMP カレッジワークショップを開催	11
(2) 大学見本市 2024 ～イノベーション・ジャパン	12
(3) 商工会議所会報による研究紹介	13
4. 地域団体との連携	
(1) 山陽小野田市連携事業実績報告書の作成	14
(2) おのだ産業キッズバスツアー 2024	15
(3) 特別講演会を開催	16
(4) 第36回夏休みジュニア科学教室を開催	17
5. 学生による地域貢献	
(1) 「私たちの筋力・握力」啓発ポスターを制作	18
(2) 『山理科 LABO』による「スライム&人工イクラづくり教室」	19
6. 地域の知を教育に生かす取り組み	
(1) 地域課題解決研究事業	20
(2) 地域卒業研究	21
(3) リーダーシップ論	22
(4) 地域技術学	22
(5) 地域産業論	23
(6) 地域社会学	23

(7) モノづくり実践工学	24
(8) 市内県内企業見学	24
(9) 早期体験学習	27
(10) 薬学教育のための市民模擬患者	27
(11) 行政薬剤師による講義	27
(12) 市内企業インターンシップ	28
(13) 県内企業インターンシップ	28
(14) 学術と地域文化	28
(15) 大学リーグやまぐち	29
7. 地方公共団体との連携	
(1) 山陽小野田市長による特別講義	30
(2) 市立図書館との相互利用	31
(3) 市立中央図書館「図書館フェスティバル」	31
(4) 江汐公園にある薬学部附属薬用植物園を活用	32
(5) 住まいる奨励金	32
(6) 各種委員の応嘱（行政関係）	33
8. 消防署との連携	
(1) 学生消防団員	35
(2) 防災訓練	35
(3) 普通救命講習	36
9. その他の取り組み	
(1) 船鉄バスのフリーパスについて	36
(2) 研究機器の開放	36
10. 地域からの入学	
(1) 地域推薦	37
(2) 入学者に占める山口県出身者（学部）	37
11. 地域への人材輩出	38
12. 地域への経済波及効果	38
13. 市内人口の約 30 人に 1 人が理科大生	38

1. 市民への貢献

(1) 薬草による健康づくり講座

開催日：2024年5月18日（土）～2025年2月15日（土）

主 催：総合型地域スポーツクラブ「スポカルクラブSGC」

後 援：山陽小野田市

場 所：江汐公園、山陽小野田市民館、山口東京理科大学

担 当：薬学部薬学科 嶋本顕 教授、田中宏幸 教授、今堀大輔 助教
共通教育センター 宇野直士 講師

内 容：広く市民の方々が対象の「薬草による健康づくり講座」は、2024年度も薬学部の嶋本顕教授がコーディネーターを務め、本学共催により全8回が開催されました。2024年度は薬学部の田中宏幸教授（第2回：大学で学ぶ薬用植物）、共通教育センターの土井浩教授（第7回：幕末長州の志士、吉田松陰）、そして薬学部の奥屋茂教授（第8回：フレイル・サルコペニアを防ぐ）が、30名ほどの受講生を前に講演されました。



(2) 小・中学校出前実験「ほんものの科学体験講座」

場 所：市内小中学校・山陽小野田市立山口東京理科大学他

内 容：「ほんものの科学体験講座」とは、平成28年度から山陽小野田市教育委員会との連携の下、実施している山陽小野田市内の小・中学生を対象とする出前実験講座です。本学教員による科学実験や講義を通じて、児童・生徒たちに「ほんものの科学」の楽しさを体験してもらうことを狙いとしています。令和6年度は、市内全ての小・中学校17校で51回実施し1337名が受講しました。



(3) サイエンス・カフェ

山陽小野田市立中央図書館を会場に、本学教員がどのような研究をしているのか、大学への理解を市民に深めていただける場として「山陽小野田市立中央図書館サイエンス・カフェ」に講師を派遣しています。2024年度は計164名に受講いただきました。

回次	日付	講師			テーマ
第52回	2024/4/20	機械工学科	准教授	大塚 章正	機械の個性差
第53回	2024/6/22	応用化学科	准教授	鈴木 克規	色々な元素で新しい物質を創る
第54回	2024/8/17	医薬工学科	教授	石川 敏弘	世界一の材料開発への道のり
第55回	2024/10/26	共通教育センター	教授	土井 浩	長州における「閩」の維新史 ～奇兵隊隊士佐々木祥一郎の悲劇～
第56回	2024/12/21	電気工学科	講師	山本 眞也	人に寄り添うコンピュータ、行動変容システムとは？
第57回	2025/2/15	数理情報科学科	講師	藤澤 健吾	人の行動は数式で書けるか？

(4) 令和6年度大学開放授業

受講期間：【前期】令和6年4月11日（木）～ 令和6年8月8日（木）

【後期】令和6年9月18日（水）～ 令和7年2月1日（土）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：本学の持つ専門知識を広く提供・発信することで地域の学びに役立てていただけるように、正規授業の一部を「大学開放授業」として地域の方々に開放しております。

令和6年度は7名の方が、大学開放授業を受講されました。

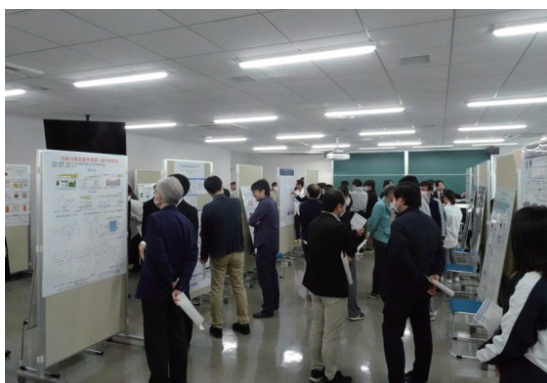
一定の授業回数を受講された方には、担当教員より、修了証をお渡ししております。生涯継続して学び続けることができる機会・社会のニーズに柔軟に対応したリカレント教育を今後一層積極的に実施してまいります。

(5) 令和6年度研究成果発表会

開催日：2025年3月12日（水）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：活気のある研究風土の醸成を図ることを目的に「令和6年度研究成果発表会」を開催しました。地域課題解決研究や若手研究者による研究など、様々な分野の教員、学生により計30テーマの発表が行われました。教職員や学生、さらに地域の薬剤師会の方々を含む約140名が参加し、活発な意見交換が行われました。



2. 高等学校との連携

(1) 「理系教員のためのリカレント・セミナー」を開催

開催日：令和6年8月6日（火）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：本学主催の理系教員のためのリカレント・セミナーを開催しました。理系教員のためのリカレント・セミナーは、県内の高等学校の教員及び山陽小野田市との連携協定に基づき、市内の小学校・中学校・高等学校の教員を対象に開催しています。今回は、山口大学教育学部栗田克弘准教授を御招きし、『児童生徒の科学的認識の順次性と科学的概念形成の授業』～観て・考えて・確かめる授業～とのタイトルで、簡単な実験を混じえながらご講演いただきました。研究協議では、本学教職課程担当教員も協議に加わり、「観て・考えて・確かめる授業」の実践に向けた授業内容と教授法などについて、校種毎の課題などを共有しながら議論を進めました。本セミナーは12機関・21人の参加があり、御参加いただきました小学校・中学校・高等学校の先生方にとっても大変有意義なセミナーになったことと思います。本セミナーが、校種毎の教員の相互理解と、小学校から高等学校そして大学へと繋がる理科教育の充実と促進の一助となれば幸いです。



(2) 出前講義

高校生を対象に、本学教員が高校に出向く講義を行いました。

2024年度の出前講義の実施状況は次のとおりです。

日付	曜日	派遣先	所属	役職	担当教員	タイトル
5月31日	金	山口県立柳井高等学校	数理情報科学科	教授	溝口 知広	3次元計測による実世界のデジタル化
6月11日	火	山口県立小野田高等学校	機械工学科	准教授	池田 毅	センサとコントローラ
6月11日	火	山口県立小野田高等学校	薬学科	教授	松永 浩文	くすりを創る～方法と考え方
6月19日	水	山口県立山口松風館高等学校	機械工学科	教授	吉田 和司	紙幣の枚数は間違えない・・・ATMのメカニズム
9月11日	水	宇部フロンティア高等学校	薬学科	教授	緒方 浩二	コンピュータを用いた薬物の設計・なぜ薬の設計にコンピュータが必要か？
9月19日	木	山口県立厚狭高等学校	応用化学科	講師	佐伯 政俊	毛髪を用いた化学実験～ヘアアレンジと化学～
10月16日	水	山口県立下関西高等学校	薬学科	講師	堀江 一郎	薬理学って何？
10月17日	木	福岡県立小倉東高等学校	医薬工学科	教授	小島 肇	バイオテクノロジーによる医薬品開発・化粧品・機能性食品の開発
10月22日	火	山口県立西京高等学校	電気工学科	教授	高頭 孝毅	液晶の科学
10月22日	火	山口県立萩高等学校	薬学科	講師	小野田 淳人	薬が創られ届くまで
10月22日	火	山口県立小野田高等学校	機械工学科	准教授	池田 毅	レゴ・マインドストームを用いたロボット製作体験学習
10月22日	火	山口県立小野田高等学校	薬学科	教授	嶋本 顕	再生医療～老化と若返り～
10月23日	水	山口県立防府西高等学校	機械工学科	教授	永田 寅臣	ものづくりで活躍するロボットと3Dプリンター
10月24日	木	山口県立下関南高等学校	薬学科	教授	松永 浩文	学部学科研究会
10月25日	金	山口県立岩国高等学校	薬学科	講師	田村 雅史	薬学で学ぶこと
10月30日	水	山口県立宇部中央高等学校	共通教育センター	教授	金田 和博	エネルギー問題を考えよう～太陽電池を中心として～
11月6日	水	宇部鴻城高等学校	機械工学科	准教授	千葉 良一	身近にある金属製品のつくり方
11月12日	火	下関中等教育学校	数理情報科学科	教授	溝口 知広	3次元計測による実世界のデジタル化
11月27日	水	美祢青嶺高等学校	電気工学科	教授	井上 啓	人口知能プログラムの基礎
11月27日	水	美祢青嶺高等学校	薬学科	教授	伊豫田 拓也	私たちはなぜ日々健康に？～モ/食う細胞・マクロファージの不思議～

12月3日	火	門司学園高等学校	医薬工学科	教授	橋本 慎二	ドラッグデザインとは？
12月5日	木	山口県立小野田高等学校	薬学科	准教授	相良 英憲	知ってナットク！脳のしくみと記憶のふしぎ
12月12日	木	梅光学院高校	薬学科	講師	田村 雅史	薬の効き方
1月23日	木	山口県立下関西高等学校	薬学科	教授	松永 浩文	発展・研究校内発表会 助言・指導
3月11日	火	山口県立大津緑洋高等学校	薬学科	教授	稲見 圭子	がん予防
3月14日	金	山口県立下松高等学校	機械工学科	教授	貴島 孝雄	やさしい自動車工学
3月14日	金	山口県立新南陽高等学校	機械工学科	准教授	千葉 良一	身近にある金属製品のつくり方
3月17日	月	山口県立徳山高等学校	薬学科	教授	松永 浩文	くすりを創る～方法と考え方

肩書は当時の役職。

3. 産業界との連携

(1) 山口県GMPカレッジワークショップを開催

開催日：2024年11月19日(火)、12月6日(金)、
2025年1月21日(火)、1月28日(火)、2月7日(金)
2月25日(火)～27日(木)

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：山口県GMPカレッジとは、山口県、山口県製薬工業協会及び本学の産学公連携による医薬品製造所の人材確保等の支援及びGMP人材育成プログラムの作成・実施を目的とした本学薬学部、工学部の学生等向けの事業です。2024年度は各企業を招いての講演会や、企業見学、工場実習等、ワークショップを6回開催しました。

日時	概要
2024年11月19日	協和発酵バイオ(株)から本学3年生を対象にGMPの講演
2024年12月6日	(独)医薬品医療機器総合機構(PMDA)から、本学2年生を対象にGMPの講演
2025年1月21日	帝人ファーマ(株)医薬岩国製造所から、全学部全学年を対象に、GMPの講演
2025年1月28日	テルモ山口(株)にて、本学4・5年生を対象に、品質保証・プレフィルドシリンジの製造工程等の見学・体験
2025年2月7日	日本歯科薬品(株)にて、本学4・5年生を対象に洗口液の処方検討や、医薬品の研究・開発を実体験
2025年2月25日～27日	インターフェックス大阪(医薬化粧品製造等の最新技術が集う国際展示会)に参加。薬学生が数多くの製薬企業等の技術・業務を学ぶとともに将来の職業選択の一助として実施。



(2) 大学見本市2024～イノベーション・ジャパン

開催日：2024年8月22日（木）～ 8月23日（金）

場 所：東京ビッグサイト

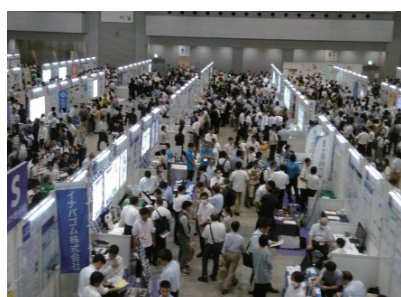
主 催：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

共 催：文部科学省

内 容：国内最大級の産学連携マッチングイベント

「大学見本市2024～イノベーション・ジャパン」に出展しました。

タイトル	出展研究者
皮膚のシミの形成に関わるメラノソームを抑制するペプチド	工学部応用化学科 講師 佐伯正俊



(3) 商工会議所会報による研究紹介

本学の研究技術を知っていただく機会の一つとして、小野田商工会議所、山陽商工会議所の会報に、毎月本学の研究技術を紹介する記事を連載させていただきました。2024年度に掲載した内容は次のとおりです。

テーマ	担当
山陽小野田市の人口動態分析	工学部数理情報科学科 准教授 高田寛之
複雑な数式を解き明かす	工学部数理情報科学科 講師 神澤健雄
カテゴリカルデータ解析の理論研究	工学部数理情報科学科 講師 藤澤健吾
新規高機能分子の設計	工学部数理情報科学科 教授 末永 敦
大規模環境の3次元計測に基づくデジタルツインの構築	工学部数理情報科学科 教授 溝口知広
山陽小野田市立山口東京理科大学大学院 工学研究科 数理情報科学専攻 【社会人向けデータサイエンス教育プログラム】	入試課
山陽小野田市立山口東京理科大学工学部内に 医薬工学科が新設	工学部医薬工学科 教授 小島 肇
無機材料の高機能発現に関する化学	工学部医薬工学科 教授 石川敏弘
環境変化から身体を守るタンパク質の遺伝子スイッチの研究 (地域特産物のアンチエイジング効果?)	工学部医薬工学科 教授 井上幸江
体内で作られる硫化水素の役割とその医療応用	工学部医薬工学科 教授 木村英雄
「リウマチ膠原病患者の骨粗鬆症に対する副甲状腺ホルモン (PTH)製剤テリパラチド連日皮下注射製剤の治療継続率、安 全性、血清カルシウム値変動に関する検討」	工学部医薬工学科 教授 黒川陽介
バイオ創薬人材育成のための教育プログラム・教材作成研究 とその医薬工学科授業への活用	工学部医薬工学科 教授 豊島 聡

4. 地域団体との連携

(1) 山陽小野田市連携事業実績報告書の作成

山陽小野田市と本学は、包括連携協定・連携依頼シートに基づき、地域貢献、教育、研究、ボランティア活動等、様々な連携事業を実施しています。令和6年度は市から大学への協力依頼：62事業、大学から市への協力依頼：17事業が行われ、その実績報告書を作成しました。



(2) おのだ産業キッズバスツアー2024

開催日：2024年8月9日（金）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学他

内 容：「おのだ産業キッズバスツアー」が小野田商工会議所主催で開催されました。

このイベントでは、市内3会場を巡りながら「市内の工場を回って普段使っている薬の作り方やどんな仕事をしているのかを学んじゃおう！」というテーマのもと、見学や講義（実験）が行われました。対象は小学校4～6年生とその保護者2名1組で、合計15組が参加しました。

本学では、薬学部の新入生が体験する参加者同士の自己紹介で「アイスブレイク」した後、薬学部薬学科の坂井 久美子講師による講義「くすりって何？」では、薬の種類や正しい使い方を学んだ後、薬包紙の折り方も体験しました。学生との交流では、山口県内出身の薬学部生2名が①この大学に入った理由、②入学してからどんなことを学んでいるか、③将来の夢や目指していること、について話しました。

講義の後は、学内のキャンパスツアーで、薬草園や薬学部の調剤実習室等も見学しました。

くすりの種類と正しい使い方を学ぶことで、くすりへの理解を深める良い機会となったことと思います。今回の訪問が、子供たちの興味を引き、若者のオーバードーズ（薬物の過剰摂取）防止対策の一助となれば幸いです。



(3) 特別講演会「もっと知って欲しい膵がんのこと」を開催

開催日：令和6年11月10日（日）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：「もっと知って欲しい膵がんのこと」

講師）JA尾道総合病院 副院長・内視鏡センター長 花田 敬士 氏

本学においてJA尾道総合病院 副院長・内視鏡センター長 花田敬士先生を講師として、お招きし「もっと知って欲しい膵がんのこと」をテーマに特別講演会を開催しました。当日は、医師、薬剤師、行政関係者、大学教職員、大学生など市内外から約40名が聴講されました。

2023年日本における死因の癌死内訳では1位肺、2位大腸、胃を抜いて膵臓が3位となったこと。膵がんの主な症状や多くの患者さんが胃の不調と思い受診されること。胃カメラや胃X線では異常が見つからないことなどお話しいただきました。検診を受診しないことのリスクや、危険因子を知りエコー検査等を受診することが、膵がんの早期診断による生存率向上に繋がることを学べ、改めてがん検診の大切さに気付かされる大変貴重な機会となりました。



(4) 第36回夏休みジュニア科学教室を開催

開催日：2024年8月17日（土）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：夏休みジュニア科学教室※「翼竜プテラノドンが飛べたのか？（科学が解き明かす未知生物の生態）」を開催し、本学工学部 機械工学科の結城 和久 教授、結城 光平 助教が講師を務めました。

県内から選ばれた小・中学生40名とその保護者が、5201教室に集い、翼竜プテラノドンやケツアルコアトルスなどの翼竜が飛べたのかを流体研究から学びました。2時間は、あっという間に過ぎ、参加者は参加賞の飛行機模型を受取り嬉しそうでした。数年後、この中から、工学を目指す子がいるかもしれません。そのきっかけになれば幸いです。



※このイベントは、やまぐち産業振興財団を中心として、山口県内の大学や高専、企業の研究所などの関係機関・団体が協力し、科学の面白さを子供たちに伝えることを目的に、夏休みに開催されています。

5. 学生による地域貢献

(1) 「私たちの筋力・握力」啓発ポスターを制作

本学の学生が、「私たちの筋力・握力」に関する知識や普及に対するポスターを作成し啓発活動を実施しました。

入賞者には、山陽小野田薬剤師会の上林雅樹会長から記念品が授与されるとともに、作成された作品は、市内の薬局に順次掲示されました。

山陽小野田薬剤師会と本学は、連携協定を締結しており、地域の健康、医療、福祉の発展に協力して取り組んでおり、今回のポスター制作は、山陽小野田市スマイルエイジング強化月間の一環として実施しました。



【各部門 入賞作品】

「優秀賞」 2 作品、「会長賞」 2 作品、計 4 作品が入賞

(2) 山口東京理科大学サークル『山理科LABO』による「スライム&人工イクラづくり教室」

開催日：2024年10月27日（日）

場 所：山陽小野田市立厚狭図書館

内 容：学内サークル『山理科LABO』の学生が講師を務め、厚狭図書館で市内外の小学生を対象に「スライム&人工イクラづくり教室！」として科学教室を開催しました。会場満員の33名にご参加いただきました。第1部「スライムづくり」、第2部「人工イクラづくり」を行い、好きな色を選んで、参加者全員で一緒に作りました。お友だち同士で見せあい、楽しい時間となりました。スライムやイクラの独特の感触を科学の実験で体験した後、山理科LABOから家庭での作り方について教室形式の説明があり、盛り上がりました。



6. 地域の知を教育に生かす取り組み

(1) 地域課題解決研究事業

本学の研究活動の振興を図るとともに、地（知）の拠点として、地域産業の振興や地域課題の解決に貢献することを目的とする事業です。市民及び市内の地方公共団体、公的機関、公共的団体、企業等が抱える地域課題を解決し、その研究成果を地域に還元します。

(教) 本学教員等が、解決すべき地域課題として取り組む研究と(公) 市内の地方公共団体、公的機関、公共的団体から提案された地域課題に、本学教員等が取り組む研究があります。

令和6年度は5件の応募があり、以下の3件が採択され地域課題に取り組みました。

【教員等が提案した課題への取り組み】

管理No.	研究課題	取組団体組織名／代表者	提案者(本学教員等)	所属・職名	共同研究者
教2	妊娠歯科健診を受診する妊婦のPersonal Health Recordサービス活用に関与するデータベースの構築	山口県済生会 下関病院 薬剤部長・中村英治	小野 浩重	薬学部 薬学科 教授	山口県済生会 下関病院 薬剤師 樋口 真理
教4	「花の海」完熟イチゴの栄養成分・抗酸化作用の解明とエビデンスに基づくブランド化	株式会社 花の海 社長 前島 昭博	井上 幸江	工学部 医薬工学科 教授	薬学部 薬学科 助教 今堀 大輔 安田女子大学 薬学部 薬学科 教授 赤木 玲子
教5	飼料生育のための硝酸態窒素低減堆肥の生産	藤井牧場 藤井 良雄	神名 麻智	工学部 機械工学科 准教授	該当なし

(2) 地域卒業研究

学部の卒業研究において地域に関連する研究テーマ（1）地域活性化（山陽小野田市及び山口県）に繋がる研究テーマ（2）地方創生（山陽小野田市及び山口県）に繋がる研究テーマに取り組んでいる卒業研究指導教員に対し、「地域卒業研究費」として実験実習費の加算配分を行い山陽小野田市や山口県等特定の地域に着目した研究テーマに支援を行っています。令和6年度は申請のあった17件全ての研究テーマが採択されました。

管理No.	研究テーマ	教員の所属／職名／氏名	申請学生
実01	Pt/Pd二元コロイドとの融合による徳地和紙の機能化	工学部 応用化学学科 教授 白石 幸英	工学部 応用化学学科
実02	山陽小野田市産アスパラガスが有する抗酸化酵素H0-1への影響	薬学部 薬学科 准教授 沖田 直之	薬学部 薬学科
実03	山陽小野田・宇部地区産農水産物が有する抗糖尿病作用の探索	薬学部 薬学科 准教授 沖田 直之	薬学部 薬学科
実04	がん疾患に特異的なユビキチン結合酵素の高感度検出	薬学部 薬学科 教授 宮本 和英	薬学部 薬学科
実05	人工小型抗体をもとにした新規の抗がん性二重特異性抗体の開発	薬学部 薬学科 准教授 田所 高志	薬学部 薬学科
実06	山陽小野田市内で使用されている一般用医薬品の先発品および後発品の比較試験	薬学部 薬学科 助教 鶴留 優也	薬学部 薬学科
実07	山口県の在宅医療ニーズにおける保険薬局薬剤師の実動可能範囲と地理情報システム(GIS)のマッピングによる可視化に関する取り組み	薬学部 薬学科 准教授 相良 英憲	薬学部 薬学科
実08	山陽小野田市に飛来する浮遊粒子状物質の性状と健康影響に関する解析	薬学部 薬学科 准教授 立花 研	薬学部 薬学科
実09	「花の海」産作物の細胞機能調節効果を基盤とする健康増進商品ブランド化の追求	薬学部 薬学科 教授 伊豫田 拓也	薬学部 薬学科
実10	山口県の特産品から得られたフラボノイド類の抗酸化作用およびDNA損傷抑制作用	薬学部 薬学科 教授 稲見 圭子	薬学部 薬学科
実11	選択的膀胱発がん性N-ニトロソジアルキルアミンの活性化機構の解明とその抑制	薬学部 薬学科 教授 稲見 圭子	薬学部 薬学科
実12	安全性の高い害獣対策用電気柵の検討	工学部 電気工学科 講師 大嶋 伸明	工学部 電気工学科
実13	傾斜孔型ポーラス銅管を用いた超省エネ型熱交換器の開発	工学部 機械工学科 教授 結城 和久	工学部 機械工学科
実14	翼竜の飛行能力研究を通じた山陽小野田市内小学生に対するワクワク感のある科学教育の展開	工学部 機械工学科 教授 結城 和久	工学部 機械工学科
実15	心不全増悪を回避する地域の医療提供体制における薬剤師の介入～心不全患者の退院後心臓リハビリテーションと心不全手帳の活用～	薬学部 薬学科 准教授 有海 秀人	薬学部 薬学科
実16	山口県の循環型地域資源としての竹・木系バイオマス資源利用による脱炭素化推進に貢献する熱電発電素子材料の開発	工学部 電気工学科 教授 阿武 宏明	工学部 電気工学科
実17	微生物燃料電池の実用化に向けた蓄電手法の検討	工学部 電気工学科 准教授 梶本 光弘	工学部 電気工学科

(17/17件)

(3) リーダーシップ論

リーダーシップ論は、様々な分野のリーダーたちの経験を学び、大学生が自分自身のリーダーシップのスタイルを考える授業です。

2024年度は、山陽小野田市の藤田剛二市長や地域の企業経営者や工場長、本学の教員など計13名のリーダーたちから、リーダーシップに関する経験を学びました。



山陽小野田市 藤田剛二市長による講義

(4) 地域技術学

地域技術学は、山陽小野田市内の企業が抱える課題について、学生が現地で現物を見ながら現実を学びつつ、ブレインストーミングやKJ法、SWOT分析などのツールを駆使して、課題の解決方法を検討し、発表する授業です。社会人基礎力を習得し、就職に強い人材を育成することを目的としています。

2024年度は大阪新薬株式会社様、共英製鋼株式会社山口事業所様、中国電力株式会社新小野田発電所様、長州産業株式会社様、都市産業株式会社様、株式会社NITTAN山陽工場様、BASF戸田バッテリーマテリアルズ合同会社小野田事業所様、株式会社明防様にご協力を頂きました。山口県産業技術センターの元理事長である山田隆裕氏から地域産業の抱える課題や解決方法に関する講話を頂くとともに、学生の最終発表に対して、山田隆裕氏、協力頂いた企業の皆様から講評を頂きました。



学生の発表と都市産業様からの講評

(5) 地域産業論

地域産業論は持続可能な社会づくりのための4本柱である環境・社会・経済・制度の側面から山陽小野田市、山口県における産業と地域の発展のあり方を学ぶ授業です。2024年度は山陽小野田市の古川博三副市長をはじめとして、関連する専門知識を有する11名の外部講師と企業勤務経験のある本学の教授による講義が行われました。



山陽小野田市 古川博三副市長による講義

(6) 地域社会学

地域社会学は学生が山陽小野田市内でフィールドワークを行い（現場に出向いての調査）を行い、集めたデータを統計的に分析し、課題の解決方法を考え、提案する授業です。

2024年度には川上地域で開発された貞任餅やいきいき百歳体操の活性化について、学生が現場に出向いて調査を行い、自ら収集したデータを分析した結果を踏まえ、課題の解決方法を検討し、フィールドワーク先の方々に提案しました。



川上地域での調査の様子

(7) モノづくり実践工学

モノづくり実践工学は、主として県内の企業16社からエンジニアを招聘して講義を実施し、実際のモノづくりについて学ぶオムニバス形式の講義です。地域産業の歴史や課題を知り、大学で学ぶ機械工学の専門分野が実際の機械系モノづくりへどのように直結し、役立っているかについて学ぶものです。



(8) 市内県内企業見学

(機械工学科)

開催日：2025年1月17日（金）

場 所：不二輸送機工業株式会社/UBEマシナリー株式会社

内 容：2年生80名が機械工学科における教育の一環として不二輸送機工業株式会社とUBEマシナリー株式会社の2社を訪問しました。各社とも事業概要の紹介の後、不二輸送機工業では物流を支える様々なパレタイジングロボットの動作・構造について見学し、またUBEマシナリー株式会社ではアルミダイカストマシンの製造現場ならびに産機の製造ラインを見学しました。実際に大型の機器が動作するモノづくりの現場を目の当たりにし、圧倒されながらも積極的に質問をする学生が多く、機械工学科での専門的な学びがモノづくりへ直結することを理解できたようでした。今回の見学は「早期に山口県内のモノづくり企業を知る」ことが目的ですが、山口県内にグローバルで活躍される企業が多くあることを知り、更に、来年度のインターンシップや就職について考える良いきっかけとなりました。



(電気工学科)

開催日：2024年7月19日（金）

場 所：中国電力株式会社・新小野田発電所

内 容：2年生68名が、電気工学実験1における現場実習の一環として中国電力株式会社・新小野田発電所の見学を行いました。最初に発電所の紹介動画を視聴し沿革や発電状況に関する理解を深めました。その後学生は6班に分かれ、ボイラやミル、高圧・低圧タービン、中央制御室などの発電所中核部分、および総合排水処理施設、貯炭場、脱硫・脱硝装置、集塵機など周辺施設を引率の中国電力ご担当者様の説明を受けながら見学しました。悪天候の中ではありましたが、少人数グループでの行動であったため、都度都度学生と中国電力ご担当者様との質疑応答の機会が設けられ、座学だけでは得られない知識を得ることが出来ました。その後のレポートにおいても、①本学の学びとの関連、②発電従事者が最も重要としている事項として学んだこと、③職業選択という観点からの気づき、の各点について、①電気工学実験1以外の電気工学科専門科目（電磁気学1・2、電気回路1～4、発変電工学）との関連、②発電効率などの工学上の点に加えて地域や環境への配慮を重視していること、③電力インフラ関係就職への意欲向上、といった具体的な記述が多くなされ、学生にとって非常に有意義な見学となりました。

(応用化学科)

開催日：2024年10月29日（火）

場 所：テクノUMG株式会社/ 日産化学株式会社

内 容：2年生の83名が、実験科目「有機化学実験」の学外学習として、近隣地元企業のテクノUMG株式会社と日産化学株式会社を訪問し、見学させていただきました。テクノUMG株式会社では、事業概要、続いて主力製品であるABS樹脂製品のサンプルを触らせてもらいながら身近な利用例の話を行いました。さらに、きしみ音対策材料としてのABS樹脂、メッキ用材料としてのABS樹脂、高発色材料としてのABS樹脂などの高機能性を有するABS樹脂についても説明いただきました。工場内の見学では、船からの原料陸揚げ設備、ABS原料の保管設備、ABS樹脂製品の生産設備、製品出荷設備、環境対策のための排気浄化設備などについて、説明を聞きながら見学しました（約1.5時間）。

日産化学株式会社では、会社の歴史的背景から現在の事業概要までを説明いただき、つづいて小野田工場において、除草剤や殺虫剤、殺菌剤などの農薬製剤・農薬原体、医薬品や半導体などの電子材料関連のファインケミカル製品などを生産していることをお話いただきました。工場見学では、巨大な反応釜やそれに繋がる原料供給パイプ類、分液の際に界面を見極めるガラス製の窓などを見せていただき、最終的に出てくる排水を貯蔵するタンクやそれらを処理するための施設にも非常に配慮されていることが分かりました。最後に、日本化学会が第1回化学遺産

として認定している明治時代のソーダ（炭酸ナトリウム）生成法であるルブラン法で生じる塩酸の吸収塔（第004号）を見学しました（約1.5時間）。



（数理情報科学科）

開催日：2024年10月31日（木）

場 所：株式会社宇部情報システム

内 容：数理情報科学科の2年生55名が、現場教育の一環として株式会社宇部情報システムを訪問しました。まず初めに、全員で会社概要の説明を受け、企業の理念や事業内容について理解を深めました。その後、学生たちは3つの班に分かれ、若手社員との座談会に参加しました。

座談会では、担当業務の内容をはじめ、仕事のやりがいや難しさ、1日の業務の流れ、さらには業務後のプライベートな時間の過ごし方に至るまで、社員の皆様に率直に語っていただきました。特に、すべての社員が20代であったことから、学生たちも自身の将来像をより具体的に思い描くことができ、積極的に質問を投げかける姿が見られました。

また、実際の開発現場や業務スペースの見学を通じて、IT企業の職場環境を間近に感じる貴重な学びの機会となりました。今回の企業訪問を通じて、大学での学びが実際の仕事とどのように結びつくのかを実感することができ、今後のインターンシップや就職活動に向けた意識の向上にもつながり、学生にとって非常に有意義な経験となりました。



(9) 早期体験学習

早期体験学習では、地域の薬剤師（薬学人）が活躍する病院、薬局、保健衛生行政に関わる現場、先端医療を支える創薬関係者が活躍する現場等を見聞し、それぞれの業務の重要性や課題について討議します。市内や県内での薬学が果たす役割を実際に見聞する具体的体験を通じて、薬学部生としての高い目的意識をもち、有意義な学生生活をおくる基盤とすることを目的としています。



※写真は2018年度撮影のものです

(10) 薬学教育のための市民模擬患者

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：薬学生のコミュニケーション教育のため、一定のトレーニングの後、実際の患者さんのように症状や会話を表現できる患者役を演じる人のことを模擬患者（SP：通称エスピー）といいます。薬学生の実習や実技試験では、患者役を演じていただきます。課題で準備されたシナリオを覚え、実際の患者になったつもりで、症状や副作用のことを話したり、薬の説明を受けたりします。本学では、未来の薬剤師を市民の皆様からの協力をいただきながら教育しています。



(11) 行政薬剤師による講義

開催日：2024年5月15日（水）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：早期体験実習の一環として、行政薬剤師（薬学人）が活躍する医療、保健、衛生、行政の現場に関する講義を聴講し、質疑応答を行いました。

(12) 市内企業インターンシップ

山陽小野田市内に立地する企業において、学生のキャリア教育や職業体験を支援するためインターンシップが行われており、積極的に学生が参加しています。2024年度は市内企業9社に対して11人がインターンシップに参加しました。

〈市内企業インターンシップ先〉

宇部フィルム株式会社/小野田商業開発株式会社

化薬ヌーロン株式会社 厚狭工場/山陽小野田市役所

太平洋マテリアル株式会社 小野田工場/日産化学株式会社 小野田工場

株式会社花の海/富士商グループホールディングス株式会社

一般社団法人やまぐち保健企画

(13) 県内企業インターンシップ

山口県内に立地する企業を対象に、学生のキャリア教育や職業体験を支援するため、インターンシップが行われており、積極的に学生が参加しています。2024年度は県内企業56社に対して73人がインターンシップに参加しました。

(14) 学術と地域文化

薬学部において、地域を理解し、物事を多角的にみる能力を養うことを目的に、外部講師を招聘する学術と地域文化を開講し、あらゆる分野の一線で、また、地域で活躍する人の話を聞き、人文科学、社会科学及び自然科学などを広く学びました。2024年度の講師は次のとおりです。

日付	講師氏名	所属等
4月17日	藤田 剛二	山陽小野田市長
4月24日	調 恒明	山口県環境保健センター 所長
5月1日	中島 伸樹	本学前職員、元山口県庁農林水産部職員（獣医職）
5月8日	小野田 淳人	山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部 助教
5月15日	久保 久美子	全日本かるた協会 初代永世クイーン
5月22日	吉田 力久	山口県薬剤師会 会長
5月29日	松原 淳子	パーソナリティ・オフィス オープ 代表
6月5日	玉村 信一	萩焼窯元松林庵登陽
6月12日	嶋田 紀和	元自然観察指導員
6月19日	土井 浩	山陽小野田市立山口東京理科大学共通教育センター 教授
6月26日	岸本 充弘	下関市立大学経済学部公共マネジメント学科 教授
7月3日	尾山 貴子	山陽小野田市福祉部 次長
7月10日	國澤 純	医薬基盤・健康・栄養研究所 副所長、ヘルス・メディカル微生物研究センター センター長
7月17日	蒲ヶ原 智子	北九州グランドフィルハーモニー管弦楽団 専務理事
7月24日	林 浩喜	社会起業大学 学長
9月24日	浅井 義之	山口大学大学院医学系研究科医学部附属病院 AI システム医学医療研究教育センター センター長

10月1日	岩村 康平・ 中嶋 克行	山陽小野田市高齢福祉課地域包括支援センター
10月8日	中津井 雅彦	山口大学大学院医学系研究科医学部附属病院 AI システム医学医療研究教育センター 特命教授
10月15日	中屋 豊	吉野川病院、徳島大学 名誉教授
10月22日	阿賀 康弘	UBE株式会社医薬事業部医薬研究所創薬薬理G 兼探索薬物動態スクリーニングG
10月29日	篠田 晃	名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 副学部長
11月5日	白澤 文吾	山口大学大学院医学系研究科医学教育学講座 教授
11月12日	野田 雄一	きららガラス未来館名誉館長、富山ガラス工房 名誉館長
11月19日	末廣 寛	山口大学大学院医学系研究科臨床検査・腫瘍学講座 准教授
11月26日	小林 晃子	宇部地域委員
12月3日	半矢 幸子	山陽小野田市食生活改善推進協議会 会長
12月10日	小林 誠	山口コ・メディカル学院 学院長
12月17日	杉浦 佳子	東京・パリパラリンピック自転車競技・女子個人ロード種目金メダリスト、薬剤師、スポーツファーマシスト
12月24日	李 桃生	長崎大学原爆後障害医療研究所幹細胞生物学研究分野 教授
1月21日	大西 慶彦	帝人ファーマ株式会社医薬岩国製造所 品質保証課長

(15) 大学リーグやまぐち

山口県内の高等教育機関の連携を深め、また、行政、産業界等と広範なネットワークを形成し、それぞれの特性を活かした様々な連携事業の実施を通じて、若者の定着促進並びに高等教育機関の地域貢献力及び教育・研究水準の一層の向上を図ることにより、地域社会の発展に寄与することを目的とした組織です。

本学も、全体会議や県内就職部会、地域貢献部会といった会議に定期的に参加しています。

7. 地方公共団体との連携

(1) 山陽小野田市長による特別講義

開催日：2024年4月17日（水）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：地域の専門家話を聞き、学び、考えることで地域の歴史・文化の理解を深め、国際性（異文化・国際問題の理解）を涵養し、人間・社会・科学を幅広く俯瞰できる能力を養うことを目的とした講義「学術と地域文化1」にてご講演いただきました。今回の講義では、『リーダーシップ論』をテーマとし、山陽小野田市政の紹介や具体例を用いたリーダーとしての取り組みや志についてご講演いただきました。



藤田剛二市長による学術と地域文化1での講義

開催日：2024年4月26日（金）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：地域の様々なリーダーたちから事例を学ぶことを通じて、学生が自分自身のリーダーシップのスタイルへの考察を深める講義「リーダーシップ論」にてご講演いただきました。『リーダーシップに纏わる人材育成』をテーマとし、コミュニケーションの取り方、10項目にわたる仕事の流儀、山陽小野田市におけるスマイルシティや協創によるまちづくりについて説明がありました。



藤田剛二市長によるリーダーシップ論での講義

(2) 市立図書館との相互利用

山陽小野田市立図書館と本学図書館との包括的連携協定に基づき、市民の学習活動に資するため、また研究者や学生の教育、研究及び学習活動に資するため、図書館資料の相互貸借を行っています。市立図書館カウンターで直接借りた本を本学の図書館カウンターで返却、または、市立図書館で予約した本を本学の図書館カウンターで受け取ることもできます。2024年度の大学と市立図書館間での相互貸借による利用冊数は市立図書館カウンターを通じ市民へ本学の図書を貸出したのは33冊、本学図書館カウンターを通じ市立図書館の図書を貸出したのは81冊です。

(3) 市立中央図書館「図書館フェスティバル」

開催日：2024年12月1日（日）

場 所：山陽小野田市立中央図書館

内 容：山陽小野田市立中央図書館において開催された第11回（通算第16回）図書館フェスティバルにおいて、本学学生が数多く参加しました。学生団体からは、自動車部によるフォーミュラカーの展示説明・試乗・エンジン始動、フィルハーモニー交響楽団による市民ときめきコンサートの出演、山理科LABOによる科学実験「スライム&人工イクラづくり」体験などを行いました。



(4) 江汐公園にある薬学部附属薬用植物園を活用

山陽小野田市が運営する自然公園「江汐公園」内に、薬学部附属の薬用植物園の整備をしています。江汐公園は約138万㎡という広大な公園で、江汐湖を中心とする美しい自然環境に恵まれ、四季折々の花が咲き誇る山陽小野田市の観光名所として市民に親しまれています。薬学部附属の江汐公園薬用植物園は、これまで学生の教育研究施設として利用するほか、薬草観察会など市民の生涯学習の場としても利用してきました。2023年に薬用植物園のリニューアルを行って以降、市民の生涯学習の場としての利用のほか、株式会社花の海の協力を仰ぎ、大学を含めた実行委員会によって「えじお みんなの薬草園」というイベントを定期的に開催し、市民に喜びと癒しをもたらす場としても利用しています。



(5) 住まいる奨励金

山陽小野田市は、市内に住民票がある新入学生を対象に、3万円を上限に市内の協力店約300店舗で利用できる経済的助成制度として「住まいる奨励金」を創設されました。本学は、学生に周知を行うとともに奨励金の申請受付及び学生への給付を行いました。



山陽小野田市「住まいる奨励金」

(6) 各種委員の応嘱（行政関係）

本学における2024年度の各種委員の応嘱の状況は次のとおりです。

委員会・審議会	内 容	本学委員等
山陽小野田市 都市計画審議会	都市計画の内容、都市計画制限、都市計画事業など都市計画に関し必要な事項を定めることにより都市の健全な発展と秩序ある整備を図ります。	工学部 機械工学科 永田 寅臣 教授
山陽小野田市 図書館協議会	図書館の運営に関し館長の諮問に応じるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べます。	共通教育センター 金田 和博 教授
山陽小野田市 地域公共交通会議	地域の实情に応じた適切な乗合旅客運送の様態及び運賃・料金等に関する事項など公共交通網形成計画について協議します。	工学部 電気工学科 井上 啓 教授
山陽小野田市 空家等対策協議会	空き家の適正管理や利活用等の空き家対策を推進するため空家対策計画策定の協議を行います。	工学部 応用化学科 井口 眞 教授
山陽小野田市 男女共同参画審議会	男女共同参画の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画の策定及び変更に関するもののほか、男女共同参画の推進に関する施策の基本的及び重要事項について審査審議します。	共通教育センター 堤 千佳子 教授
山陽小野田市 高齢者保健福祉推進会議	高齢者の保健福祉環境づくりの総合的、かつ、計画的な推進に関する事項について調査し、審議します。	薬学部 薬学科 坂井 久美子 講師
山陽小野田市 文化財審議会	国・県・市が指定をしている文化財の保護や、収蔵に関すること、また今後の活用に関するものを審議します。	共通教育センター 土井 浩 教授
山陽小野田市 健康づくり推進協議会	市民の实情に応じた健康づくり施策を推進します。	薬学部 薬学科 恵谷 誠司 教授
山陽小野田市 教育委員会	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、教育に関する事務の点検・評価を行うに当たり、客観性を確保するため教育に関し学識経験を有する方の知見を活用します。	共通教育センター 福田 みのり 准教授
山陽小野田市 文化によるまちづくり 推進委員会	山陽小野田市における文化芸術の振興及び文化によるまちづくりの推進に関し、広く市民から意見を聴くために設置されています。	共通教育センター 縄田 也千 教授
山陽小野田市 子ども読書活動推進計画 検討委員会	山陽小野田市執行機関の附属機関に関する条例に基づき、山陽小野田市子ども読書活動推進計画について検討します。	共通教育センター 金田 和博 教授
山陽小野田市 文化会館運営委員会	文化会館の運営全般に関する意見交換を行います。	共通教育センター 縄田 也千 教授
山陽小野田市 中学生の文化・スポーツ 活動体制整備協議会	山陽小野田市における中学生の新たな文化・スポーツ活動の在り方及び体制を整備するために設置された協議会です。	共通教育センター 宇野 直士 講師
山口県立豊浦高等学校 学校運営協議会	学校と地域を結ぶ組織として、学校の教員と地域の様々な組織・団体から構成されている学校運営協議会を設置しています。	工学部 応用化学科 太田 雄大 教授
山口県立下関中等教育 学校学校運営協議会	学校と地域を結ぶ組織として、学校の教員と地域の様々な組織・団体から構成されている学校運営協議会を設置しています。	工学部 機械工学科 吉村 敏彦 教授
山口県立小野田高等学校 学校運営協議会	学校と地域を結ぶ組織として、学校の教員と地域の様々な組織・団体から構成されている学校運営協議会を設置しています。	工学部 応用化学科 白石 幸英 教授
山口県立小野田工業高等 学校学校運営協議会	学校と地域を結ぶ組織として、学校の教員と地域の様々な組織・団体から構成されている学校運営協議会を設置しています。	共通教育センター 福田 みのり 准教授
山口県立下関西高等学校 学校運営協議会	学校と地域を結ぶ組織として、学校の教員と地域の様々な組織・団体から構成されている学校運営協議会を設置しています。	薬学部 薬学科 松永 浩文 教授

委員会・審議会	内 容	本学委員等
山口県立下関南高等学校 学校運営協議会	学校と地域を結ぶ組織として、学校の教員と地域の様々な組織・団体から構成されている学校運営協議会を設置しています。	薬学部 薬学科 松永 浩文 教授
山陽小野田市本山小学校 学校運営協議会	学校づくり、地域づくりの両視点から地域ぐるみで子どもたちの学びを支える取組を推進しています。	共通教育センター 福田 みのり 准教授
山口県やまぐち産業 イノベーション促進補助 金審査委員会	山口産業イノベーション促進補助金採択事業の選定、事業評価を行います。	工学部 医薬工学科 石川 敏弘 教授
山口県環境審議会	環境基本法第43条及び水質汚濁防止法第21条の規定に基づき、県内の環境安全に関する基本的事項及び水質の汚濁防止に関する重要事項を調査審議します。	薬学部 薬学科 立花 研 准教授
山口県地方薬事審議会	地方での薬事に関する事項を審議します。	薬学部 薬学科 和田 光弘 教授
山口県献血推進協議会	山口県における献血思想の普及に向けた献血推進事業について協議します。	薬学部 薬学科 恵谷 誠司 教授
やまぐち広域スポーツ 企画運営委員会	山口県の総合型地域スポーツクラブの推進状況の確認及び今後の方針について協議しています。	共通教育センター 宇野 直士 講師

8. 消防署との連携

(1) 学生消防団員

高齢化などで定員割れが続く消防団の活動を若い力で活性化させようと、消防団員の任用資格を市内に通学する学生も対象とすることに変更し、本学で学生消防団員を募り、2024年度は合計13名の学生が参加しました。



(2) 防災訓練

開催日：2024年10月4日（金）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：小野田消防署、富士産業株式会社の協力のもと、防災訓練を実施しました。第1部では、授業中に地震が発生した後、6号館で火災が発生したことを想定して、学生の避難誘導をはじめ、安否確認、発生した火災にかかる消火方法の確認及び防火区画の形成、救助活動、トランシーバーを用いた情報共有などを実施しました。第2部では、小野田消防署の指導による発火物に対する消火器を用いた消火訓練、消火栓や担架の使用方法を確認したほか、火災時の煙体験を実施しました。



第1部：自衛消防隊集合の様子



第1部：救助活動の様子



第2部：消火訓練の様子



第2部：担架使用訓練の様子

(3) 普通救命講習

2024年は3回、普通救命講習（Ⅰ）を宇部・山陽小野田消防局小野田消防署から講義を受け、合計38名の教職員が受講しました。

心肺蘇生法、AEDの使用方法、異物除去及び止血法の方法を学ぶとともに、講習会を通して、応急手当の知識と技術を身につけました。



9. その他の取り組み

(1) 船鉄バスのフリーパスについて

本学と船木鉄道株式会社は、公共交通フリーパスに関する協定を締結しました。

本協定により、2020年4月から2026年3月まで、本学に通う学生は学生証を提示することで、船木鉄道株式会社（船鉄バス）が運行する路線バスの全路線を無料で利用できます。

(2) 研究機器の開放

研究機器センターに設置している大型の測定装置、分析装置を企業に開放しています。

2024年度の企業等の利用状況は次のとおりです。

利用企業数	利用回数
5 社	8 回

10. 地域からの入学

(1) 地域推薦

入学者に占める県内出身者の比率を高めるために、学校推薦型選抜では県内の高校等出身者を対象とする「一般推薦【地域枠】」及び「指定校推薦」を採用しており、工学部では18.3%、薬学部では25.0%を県内からの募集人員に設定しています。

2025年度の入学者選抜区分と募集人員は、以下の表のとおりです。

(単位：人)

学部	入学定員	入学者選抜区分と募集人員				
		地域枠	指定校	計	割合	一般選抜 その他
工学部	300	25	30	55	18.3%	245
薬学部	120	18	12	30	25.0%	90
計	420	43	42	85	20.2%	335

(2) 入学者に占める山口県出身者（学部）

2025年度の入学者450人のうち、県内出身者は146人と、入学者全体の32%となりました。

(単位：人)

学部	入学者数	山口県内出身者		山陽小野田市出身者	
		人数	割合	人数	割合
工学部	331	106	32.0%	19	5.7%
薬学部	119	40	33.6%	2	1.7%
計	450	146	32.4%	21	4.7%

11. 地域への人材輩出

大学院進学者を除く2024年度卒業生数は、工学部126名、薬学部117名、工学研究科（修士課程）28名、工学研究科（博士後期課程）1名で、このうち県内への就職者は75名（就職者の約29.2%）となっています。

主な就職先は、工学部は製造業、建設業が多く、薬学部は卸売業・小売業、医療・福祉が多く、工学研究科は製造業となっています。

（単位：人）

学部等	就職者数	山口県内就職者数		山陽小野田市内就職者数	
		人数	割合	人数	割合
工学部	123	53	43.1%	8	6.5%
薬学部	105	17	16.2%	2	1.9%
工学研究科 （修士課程）	28	5	17.9%	2	7.1%
工学研究科 （博士後期課程）	1	0	0.0%	0	0.0%
計	257	75	29.2%	12	4.7%

※山口県内企業は県内に本社または事業所がある企業を含む

※山陽小野田市内企業は市内に本社または事業所がある企業を含む

12. 地域への経済波及効果

本学が立地することにより、教育研究活動や施設整備による地域への経済活動が行われるとともに、学生や教職員が大学近隣に居住することによる消費活動が生み出されています。

これら様々な活動が行われることにより、市内・県内への経済波及効果が創出されています。

参考：本学が立地することによる地域への経済波及効果（2024年度）

経済波及効果	山口県への経済波及効果	山陽小野田市への経済波及効果
直接効果	39.3億円	24.5億円
生産誘発額	32.8億円	20.3億円
付加価値誘発額	20.1億円	12.5億円
総合効果	92.2億円	57.3億円

13. 市内人口の約30人に1人が理科大生

2025年5月1日現在、山陽小野田市の人口58,511人に対し、本学の学生数は1,982人（学部1,889人、大学院93人）となっており、市内人口の約30人に1人が理科大生となります。

公立大学法人 山陽小野田市立山口東京理科大学
〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通1-1-1
TEL: 0836-88-3500 (代表)



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学
Sanyo-Onoda City University